

令和5年度 第1回守口市総合教育会議

○議事日程

令和5年7月31日（月）午前10時00分 開会

○出席委員

市長	瀬野 憲一
教育長	田中 実
教育委員	江端 源治
教育委員	杉岡 佐緒理
教育委員	田中 満公子
教育委員	古川 知子

○事務局

企画財政部長	尾崎 剛
企画課長	仲嶋 浩平
企画課長代理	宮崎 啓吾
企画課主任	山本 晋士
教育監	森田 大輔
学校施設整備監	長田 幸一
教育部次長(兼)教育部長心得	瀬尾 克典
教育総務課長	酒田 宗利
学校教育課長	水野 敦夫
学校教育課主幹	市川 忠樹
学校教育課主任	鈴木 彰太
学校教育課主任	原田 裕子
保健給食課長	後藤 勝義
保健給食課主任	西山 将司
教育センター長	佐々木 幸子
教育センター主任	安田 勇輝

~~~~~  
◇ 午前10時00分開会

○事務局 皆様おはようございます。定刻より少し早いですが、皆様おそろいでございますので、ただいまから令和5年度第1回の守口市総合教育会議を開催させていただきますと存じます。

私、事務局として、本日議事進行を務めさせていただきます企画財政部企画課の仲嶋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、総合教育会議の開催に先立ちまして、瀬野憲一市長から一言御挨拶を頂戴いたします。

○瀬野市長 皆さん、改めましておはようございます。市長の瀬野でございます。

教育委員の皆様方におかれましては、日頃から守口市の教育行政の推進に格段のお力添えをいただいております、本当にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。また、本日はお忙しい中、この総合教育会議に御出席賜りまして、本当にありがとうございます。

今年度、第1回目の総合教育会議ということで、私も4月に市長に就任しております、また、教育長の田中も4月就任ということで、初めての総合教育会議でございます。

教育の充実というのは、この守口市においても非常に重要な施策の一つでございます。皆さん方の幅広い識見によって御意見をいただきながら、この守口市の教育の充実に努めてまいりたいと思っております。

先日、6月の市議会定例会が終わりまして、小学校給食の無償化ということで、これまで国の交付金を活用して臨時的に無償でやっておりましたけれども、今後小学校の給食については、守口市では恒久的に、ずっと無償でやっていくという状況でございます。また、中学校給食も、現在喫食率が18%少しということで選択制になっております。これも将来的には全員喫食、それから無償化を目指したいというようなことも私自身は考えておりますけれども、何かと課題も多くございますし、皆さん方の御意見もいただきながら、ぜひ実現できたらなというふうに思っております。

どうか本日は、忌憚ない御意見をいただき、私も非常に参考にさせていただいて、教育行政充実に向けて邁進したいと思っております。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○事務局 ありがとうございました。

それでは、さっそくではございますが、議事に移らせていただきます。

本日の次第並びに資料でございますけれども、パソコンで御確認をいただけるようになっておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、次第に沿いまして進行させていただきます。

まず、議題1「第2次守口市教育大綱に係る取組実績及び今後の取組予定について」でございます。それでは、こちらにつきまして事務局から御説明させていただきます。

○事務局 議題1「第2次守口市教育大綱に係る取組実績及び今後の取組予定について」を御説明いたします。恐れ入りますが、お手元の資料1「第2次守口市教育大綱に関連する事業の取組状況一覧」を御参照賜りますようお願いいたします。

本資料は、令和3年度から令和7年度までの5年間を対象期間とする「第2次守口市教育大綱」に掲げる取組について、令和4年度の実績と令和5年度の取組予定を記載しております。

まず、教育委員会事務局から、教育委員会の取組実績等について御説明させていただきます。

○事務局 教育委員会の主な令和4年度の実績と令和5年度方針について、御説明させていただきます。

1ページの資料左側①、③、④の基本方針「命を守る～安全安心な環境づくりとたくましく生きる健康と体力づくり～」における令和4年度の実績としては、①では、いじめ、虐待防止として、7人のスクールソーシャルワーカーを年20回程度学校に派遣するとともに、延べ1,560人を対象に244回のケース会議を実施しました。

また、守口市いじめ問題対策連絡協議会を2回開催し、関係機関との連絡調整等を行いつつ、教育相談窓口での相談や学生フレンドの派遣などを行いました。

令和5年度につきましても、引き続きあらゆる手法で児童生徒の見守りを行ってまいります。

③では、児童・生徒の安全を確保するため、各校において守口警察署職員による交通安全教室を行うとともに、昨年度に続き、学校から通学路の設置要望があった箇所、市で2,000メートル超のグリーンベルトを整備してもらいました。

令和5年度におきましても、関係部局と協力し通学の安全確保に努めていきます。

④では、全ての中学校区で学校運営協議会を開催し、食育イベントの実施など子どもたちの健康・体力づくりや家庭教育の支援について充実を図りました。

令和5年度においては、児童生徒が調和の取れた生活習慣を身に着けるための自己点検カードの活用にも取り組んでいきます。

次に、2ページの資料左側番号⑤から⑦までにつきましても、基本方針「学力を伸ばす～一人ひとりの学力の向上と個性・創造性の伸長～」として、⑤、⑦では、令和4年度における取組実績として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と自学自習力の育成に向け、年46回の「学力向上推進教員会議」の実施とともに、小学校で年20回、中学校で38回の土曜日学習を実施しました。

令和5年度については、「学力向上推進教員会議」を継続開催するとともに、土曜日学習によって学習のつまずきのある児童生徒へのサポートを行い、全ての子どもたちの確かな学びの保障に向けて取り組んでいきます。

また、読書習慣の定着及び主体的に学ぶ力の育成を目指し、学校図書館の利活用の向上にも努めていきます。

⑥では、スマートスクール実現モデル校の錦小学校・八雲中学校を中心に、ICTを活用した授業実践の研究・公開を行うとともに、より一層の授業改善を進めるため指導者用タブレット端末の整備を行いました。加えて、学校教育情報化コーディネーターの増員と大阪府「GIGAスクール運営支援センター」への参画によって、児童生徒及び教職員の支援強化を図りました。また、学習者用デジタル教科書の実証事業重点校である守口小学校において、公開授業などを行い、デジタル教科書の活用を進めています。

令和5年度においては、引き続きモデル校の公開授業や実践発表などを行い、市内での情報共有を図るとともに、オンライン授業の改善やデジタル教科書等の効果的な活用について研究を行い、児童生徒の学習意欲や学習効果の向上に取り組んでいきます。

次に、2ページの資料左側番号⑧につきまして、基本方針「心を育てる～人権を尊重し、豊かな人間性と社会性の育成～」として、令和4年度は人権尊重の教育や道徳教育を充実し、自己肯定感を高めつつ、自己抑制力を育むとともに、障害者や外国人等に関する理解を深め、豊かな人間性と社会性を育むため、生徒指導におけるアンケートの実施や人権・支援教育・道徳に関する教員の研修を行うなど学校全体における意識の向上に努めました。

令和5年度については、キャリアパスポートの効果的な活用についても取り組んでいきます。

次に、3ページの資料左側番号⑨、⑩ですが、基本方針「魅力ある学校づくりを推進する～教育環境の整備～」として、令和4年度の取組実績として、先述の教職員タブレット端末の整備とともに、オンライン学習充実のため、無線アクセスポイントの追加や学習系ネットワーク回線増強を行い、通信速度を向上させました。令和5年度においては、機器のメンテナンスと稼働状況の検証を行っていきます。

また、令和4年度の教育環境整備、⑩では、熱中症対策の一環として、ウォータークーラー未設置校の小学校7校に機器の設置を行い、全ての市立学校への設置が完了しました。

また、教育環境向上に向け老朽化対策と学校規模の基準を定めるため、令和4年8月に「守口市学校規模等適正化基本方針（改訂版）」の策定を行い、学校規模が大きくなり、教室不足が見込まれる守口小学校の施設整備の設計に着手するとともに、市立学校の体育館への空調設置に向けた調査を実施しました。

令和5年度には、空調の調査結果を踏まえ、市立学校の体育館への空調及びLED照明の設置を行うとともに、八雲中学校における義務教育学校設置に向けた八雲小学校と下島小学校の統合準備として、八雲小学校の教室整備を行います。

3ページ資料左側番号⑪、4ページ⑬ですが、基本方針「地域の力と教職員の自己研鑽で学校力を高める～明確なビジョンを共有した学校経営と教職員の資質向上～」、また「人・地域がつながる～子どもを育てる活動・ネットワーク化の促進～」としては、令和4年度には各中学校の学校運営協議会を中心とした学校運営への意見や評価をいただくとともに、学校・家庭・地域をつなぐ教育フォーラムの実施を行いました。また、教職員の資質向上に向けた研修についても実施を行い、令和5年度以降も引き続き地域と協力し、学校運営の向

上を目指した取組を進めていきます。

以上、誠に簡単な説明ではございますが、教育委員会での主な取組になります。

○事務局 次に、企画課から、市長部局の取組実績等について御説明いたします。

項目が多岐にわたりますので、主なものを御説明させていただきます。

まず、資料4ページ目の資料左側⑮の基本方針「生涯学べる社会をつくる～文化・スポーツを通じた、生きがいのある地域社会の実現～」における市立図書館に関する生涯学習・スポーツ振興課の令和4年度の取組実績としましては、「守口市立図書館運営方針」で定めた蔵書数拡充計画の目標は、令和4年度19万5,000冊に対して、実績20万7,791冊。

デジタル化された電子書籍を、インターネットを通じて自身のスマートフォン等で借りて読むことができる「電子図書館サービス」の開始などを実施しました。

また、令和5年度の取組予定としましては、「守口市立図書館運営方針」で定めた、年度ごとの蔵書数拡充計画に基づき、蔵書数の拡充と資料の充実を図る。市内小学校新1年生全員を対象に図書りようしゃカード及び読書通帳の配布、図書りようしゃカード申込のオンライン化実施などを行う予定としております。

次に、資料左側⑯の文化財に関する取組について、生涯学習・スポーツ振興課の令和4年度の取組実績としましては、市立図書館内の郷土資料展示室で古文書や郷土資料の保管・展示、市文化財研究会との共催事業などを実施しました。

また、令和5年度の取組予定としましては、市立図書館内の郷土資料展示室で古文書や郷土資料の保管・展示、郷土資料等を活用したイベント、市文化財研究会との共催イベントなどを実施する予定としております。

最後に、資料左側⑰の学校給食への食材の支援や児童の農業体験事業などに関する取組について、地域振興課の令和4年度の取組実績としましては、学校給食への食材提供、市内農家による児童への農業体験の実施などを実施しました。

また、令和5年度の取組予定としましては、地場産野菜の学校給食への食材提供の支援、守口大根の収穫への児童の参加などを行う予定としております。

説明は、以上でございます。

○事務局 議題1に関する事務局からの説明は以上でございます。

ここからは、委員の皆様の御意見や御質問、あるいは御議論等いただければと存じます。よろしく願いいたします。

○田中教育委員 表の見方の質問なんですけれども、右側の2列がブルーのところと白のところがあるんですけど、何か違いがあるのでしょうか。

○事務局 ブルーで網かけさせていただいてところが、先ほど御説明させていただいた項目でございます。全ての項目を御説明できておりませんので、御説明したところだけ網かけをしております。

○田中教育委員 はい、分かりました。ありがとうございます。

○古川教育委員 学力向上推進教員会議の回数が書かれていますけれども、それぞれの

学校において、どういう改善につながっていったみたいなところは、ここにはなかなか表れてこないところなんですけど、いろいろと視察等々で教えていただけたらと思います。各学校は自分のところの状況に応じて目標を設定されるみたいなの、そういうことも進めておられるかなとは思いますが、ほかに言えるところで、キャリアパスポートなども他の自治体も進めておられるんですけども、効果的な活用っていうのがどれぐらい進むかっていうふうなこととかも、ぜひ教えていただけたら。今日じゃなくて、と思います。

○事務局 学力向上推進教員の各校の課題というところのお話をいただきましたけれども、各学校で学力向上推進プランっていうものを、それぞれの学校で立てておまして、学期に1度しっかりそれを見直して、PDCAサイクル回していこうというような、そういった取組を行っているところです。

それで、学力向上推進教員がそれぞれ、みんなが集まる場で、自分たちのその学力向上推進プラン、今どういうふうな状況で進んでるかとか、ここちょっと困ってるんだけどほかの学校どうしてるかなというような、そんな交流もしたりしながら、取組改善、今してるっていうところがありますので、今年度も引き続きそういったところ中心にしていきながら、そういった学校、中学校区とかでも連携することかありますので、進めていけたらなというふうに考えております。ありがとうございます。

○事務局 キャリアパスポートにつきまして、前年度、各守口市立学校のほうから、その事例の提供について受けております。その中でも、例えば好事例というところで、校長会のほうでも共有させていただいておりますのが、ある学校で、1枚のシートの中で、各学期や、タイミングタイミングで自分の成長であったりとか、今の心境であったりとか、簡単ではございますが、そのときのものを記録していくような、それでそれをまた次のタイミングで見取って行って、自分自身のことを経年で成長なんかを読み取れるような形にしている学校もございまして、こういった例について、今後も引き続き共有等をさせていただきながら、改めて研究を図っていけたらと思っております。

○古川教育委員 キャリアパスポートとかは、小中での連携みたいなことも、とっても大事なのかなと思っておりますので、よろしくお祈りします。

○江端教育委員 守口市総合教育会議、私何度も同席させてもらってますけれども、今いろいろある学校のあり方の中で、前西端市長が、よく毎回のようにおっしゃったのが、守口の学力のことをおっしゃったと思います。例えば、なぜ守口の学力が全国や大阪府平均より、数値だけ見ると低いのかとかですね。そういったことに関して、もう少し教育委員会としての見解を、せつかく新市長もおられますので、お聞かせいただけたらと私も思います。

○事務局 次の議題2のほうで、今後の教育行政のあり方というところの議論させていただきたいと存じます。

○江端教育委員 分かりました。

○事務局 議題1に関しまして、ほかに委員の皆様方ございますでしょうか。

○瀬野市長 今、古川委員、江端委員からもありましたように、その学力向上ということ

に関して、この資料でも学力向上推進教員会議を年46回開催という回数もさることながら、中身というか、例えば、特徴的なその学校独自の取組でこういう成果が上がったとか、そういうものも何か目に見えるような形で、今、古川委員もおっしゃいましたけども、回数46回ということではなくて、何か特徴的な守口市の学校独自の取組でこういうことで非常に効果が上がっているとか、そういうものもちょっと我々も教育委員の皆さんもそうですけど、目に見える形で共有できたらなというふうには思います。また出てくるかも分かりませんが、そういう感じはしました。

以上です。

○事務局 ありがとうございます。

よろしければ、議題2へ移らせていただいてもよろしいでしょうか。

それでは、議題2に移らせていただきます。

本日の議題2「これからの守口市における教育行政のあり方について」でございます。それでは、こちらにつきまして事務局のほうから説明を行わせていただきます。お願いいたします。

○事務局 それでは資料2、議題2の「守口市における教育行政の現状と課題」の2枚目のスライド、目次以降御覧ください。

学校教育課からは、1、2について御説明をさせていただきます。スライドの3枚目、右下が1ページになってる箇所を御覧ください。

「1. 学力向上」については、全国学力・学習状況調査の結果と市教育委員会が設定した目標値の達成状況をお伝えした後、学力向上推進教員配置事業と土曜日学習事業の2つの主な取組を御説明させていただきます。

スライドの上段は、令和4年度の全国学力・学習状況調査結果概要を示しています。全国平均の正答数との差は、小学校とで1問程度、中学校とでほぼ同程度で、子どもたちの学力はおおむね定着しています。設問ごとの結果を見ると、国語の「書くこと」、算数・数学の「図形」において、正答率が低い問題や無回答が多い問題が見られたほか、思考力・判断力・表現力の育成が課題となっています。

また、スライド下段には、これまでの調査結果の推移について、その詳細を見るため、全国を1としたときの割合を示しております。小学校等では低下傾向が見られ、中学校等では改善傾向が見られています。

スライド2枚目を御覧ください。学力向上に係る目標値の設定及び結果について説明させていただきます。

急激に変化する社会に対応するため、児童生徒の資質・能力の育成にスピード感を持って着実に取り組む必要があることから、教育委員会として学力向上に係る目標値を設定し、教職員や子どもたちの意欲をより一層喚起して、目標達成に向けた学習活動の具体化を図っています。

全国学力調査のアンケート項目にもある、授業改善及び自学自習力の育成に係る6項目

全てを全国水準以上にすることを目標としております。赤枠は授業改善に係る項目で、設定した目標値を上回っている状況が続いており、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が着実に推進されていると捉えています。青枠は自学自習の育成に係る項目で、一部達成した項目はあったものの、特に家庭学習及び読書習慣の定着などの自学自習力の育成について課題が解消されていない状況が継続しています。

スライド3枚目を御覧ください。学力向上に向けた本市の特色ある取組を御説明させていただきます。

1つ目は、学力向上推進教員配置事業についてです。スライド左側を御覧ください。本事業は、全校に市教員を配置し、学力向上推進教員が授業を持たず、学力向上推進プランの作成や学力調査、アンケート結果の分析、校内の研修や会議などの計画・運営等、学力向上に係る取組のコーディネートに専念できる環境を整備しています。

左下写真にありますように、週に1回教育委員会の指導主事も一緒になって、全校の担当教員とともに学力向上の取組について協議しています。また、効果が見られる学校の授業公開にも全校の担当教員が参加し、自校の取組につなげています。

これらの取組の効果としましては、スライド右中段にあります、全教員を対象としたアンケートの結果で、どの項目もおおむね肯定的割合が高く、担当教員のコーディネートにより、教職員等の授業改善等に係るベクトルの統一が図られたことがいえます。

一方で、自学自主力の育成に係る項目、特に中学校等の「家庭での読書の機会を作る取組を行っていますか」は26.2%と、先ほどのスライドでお示した児童生徒アンケートの結果と同様に低く、課題であります。今年度の学力向上担当者会議で取り上げ、改善に向けて協議を進めているところです。

スライド4枚目を御覧ください。次は土曜日学習事業についてです。

左側上段を御覧ください。本事業は、基礎学力の定着と家庭学習の充実を図ることを目的に、全ての学校で実施しています。教科は国語、算数・数学の2教科ですが、最大3名の子どもに1名の学習指導員を配置し、きめ細やかな指導を行っているのが本市の特徴です。

右側を御覧ください。児童生徒アンケートで、令和3年度の中学校等1年生から3年生の数学については、中学校3年生の生徒が受験を間近に控えている2月のアンケートでもあり、肯定的割合の低下が見られますが、ほかは維持または向上が見られます。また保護者アンケートからも、本人の自信につながったと回答をいただいておりますとおり、参加児童生徒は年度末最後まで意欲的に取り組んでおりました。

その結果として、左側中段にあります事業者による全国テスト結果の偏差値でも向上が見られ、令和4年度は全ての学年で向上しております。

右側の中ほど、参加児童生徒数の推移を御覧ください。中学校では、参加者が年々増加しています。これは、小学校段階から、土曜日学習事業に参加している児童自身、またその保護者が学習意欲や学力の向上を実感できていることの表れと捉えております。保護者からは、英語の実施や年度途中の参加を認めてほしいという要望がありますので、今後、児童生



徒の個人の経年変化などの効果検証を行い、実施教科・募集人員の拡充を検討していきたいと考えています。

スライド5枚目を御覧ください。

本市では、全ての児童生徒の確かな学びを保障するため、組織的な研究体制のもと、授業改善、自学自習力の育成を2本柱とし、9年間を見通した取組を推進するため、「守口市学力向上プラン」を策定しています。

先にお伝えした取組により、子どもたちの学力はおおむね定着、中学校では全国平均と同程度などの成果が見られる一方で、家庭での学習及び読書習慣の確立がしていない児童生徒が全国平均より多いなどの課題が見られます。

これらのことから、今後は学力向上推進教員を中心に教職員のベクトルを丁寧にそろえ、中学校区での連携をより一層強化し、思考力、判断力、表現力及び自学自習力の育成に向け、より組織的に取り組むこと、また、児童生徒・保護者のニーズに応じた土曜日学習事業となるよう、事業規模や実施教科の充実に向けた検討、そして、学力向上推進教員の意見も参考にしながら、市の課題に正対した新たな学力向上プランの策定をしまいたいと考えています。

続いて、スライド6枚目を御覧ください。「2. 不登校支援」について、不登校の現状を踏まえ御説明させていただきます。

スライドの棒グラフのとおり、不登校児童生徒数は平成30年度まで緩やかな増加から減少に転じておりましたが、コロナ禍により大きく増加に転じています。1校当たりの不登校児童生徒数は、右側の表にありますように平成24年と令和2年と比較しますと、小中共に9人増となっております。

近年、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家の配置により、専門的な相談の実施や校内ケース会議に参画する取組がされています。

不登校児童生徒のうち、無気力・不安を要因とするものが特に小学校において増加しています。不登校に至る背景や心の状態は複雑で多岐にわたっており、児童生徒個別の対応が求められます。さらに、一人ひとりにきめ細やかな関わりを持ち適切に支援していくためには、専門家等と連携し組織的な対応が必要です。現状の専門家配置状況では、専門家による相談を受けることができていない児童生徒が多く、今後さらに増えることが予想されることから、専門家の配置拡充が必要と考えています。

○事務局 「3. 学校施設」については、令和4年8月策定の「守口市学校規模等適正化基本方針（改定版）」の概要について簡単に御説明いたします。

まず、平成24年3月に策定した基本方針については、少子化による学校の小規模化と学校施設の老朽化への対策を主眼としたものでした。この方針に基づき、平成27年の樟風中学校を初めとし、統合によって5つの新設校を開校してきましたが、新設校以外の学校についても施設の老朽化が進んでいることから、「守口市立学校施設整備計画」を策定しました。

また、学校規模等も含め、新しい学びの実現に向けた今後の学校のあり方について、守口

市新しい学校・園づくり審議会へ諮問し、9年間を見据えた学びの充実等の答申を経て、今回の基本方針の改定に至っております。

主な改訂内容は4点です。「学校規模の基準の改定」、「規模適正化は、長期間での人口動態推計を勘案する」、「小中一貫教育の観点から、統合時には積極的に義務教育学校等の設置を検討する」、「学校規模が大きくなる場合への対応」、この4点でございます。

また、具体的に言いますと、学校規模の大規模化への対応として、教室不足が見込まれる守口小学校の校舎整備。学校施設の老朽化が進み早期に対策を要する八雲小学校と下島小学校を統合し、十分な校地を確保した上で、八雲中学校との統合による義務教育学校を設置。他の学校については、「守口市立学校施設整備計画」に基づき、原則、コンクリート強度が著しく低い校舎がある学校を優先し、建築年度に基づき、順次長寿命化改修を基本とした教育環境の整備に取り組んでいく旨を示しております。

次のページに参ります。ここでは、現在の施設整備の進捗と今後の予定について御説明いたします。

まず、守口小学校については、現在設計業務中ございまして、今年度末の完了を目指しており、今後、令和6年から令和8年度にかけて工事を進めてまいります。

次に、八雲中学校区の義務教育学校については、この6月市議会でも八雲小学校と下島小学校の統合に関する条例の改正を御議決いただき、今後は設計業者の選定を行い、令和9年度の新校舎供用開始を目指してまいります。

最後に、屋内運動場の空調設置については、現在設計中ございまして、7月末をもって全校の設計業務を完了し、順次工事発注を行い、秋以降から工事着工を行い、今年度末までの完了の予定となっております。

以上でございます。

○事務局　引き続き、保健給食課のほうから、スライド9ページ、「4. 中学校給食」についてでございます。

まずは、中学校給食導入の経緯等を説明いたします。中学校給食については、昭和50年から検討が行われ、当時の財政事情や施設面等の状況を踏まえ、全中学校において中学校食堂による実施を行ってまいりました。開設以降、一定の利用者がありましたが、生徒数の減少やコンビニエンスストアの増加に伴い利用者が激減する状況もあり、改めて望ましい中学校給食の検討が必要となりました。そのため、平成23年11月に守口市立中学校給食懇話会を設置し、保護者、学校関係者より多くの意見を聴取した上で、平成24年5月には守口市立中学校給食導入検討委員会を設置し、本市中学校にとってふさわしい中学校給食のあり方及び実施方法等について生徒・保護者を対象としたアンケート結果をもとに、具体的な実施に向けた議論を行いました。その結果報告を踏まえ、教育委員会において、平成24年9月に守口市立中学校給食実施方針の策定に至った次第です。

主な内容は、1つ目、民間調理場を活用したデリバリー方式とし、既存の食堂調理施設を有効活用すること、2つ目、家庭からの弁当等と給食を選択できる選択制とすること、3つ

目、喫食場所については、食堂施設を活用したランチルームとすることとしており、平成26年1月の梶中学校を皮切りに順次開始し、全中学校等において選択制による中学校給食を提供しております。

現在の中学校給食の概要でございます。献立は調理業者と教育委員会が協力して作成しており、1食330円で、主食として主に御飯、副食として2、3品程度のおかず、牛乳となっております。また、予約方法等についてはスマートフォンなどによる予約が可能など、保護者の利便性を考慮しております。

10ページ、次のスライドに移りまして、こちらの表は過去5年間の喫食等を示しているものです。令和4年度の実績は全校平均で18.7%。中学校では、第一中学校の20.2%が最も高く、梶中学校の8.4%が最も低い値となっております。なお、令和2年度以降、喫食率の低下がみられますが、コロナ禍によって黙食を強いられたことが要因の一つと考えています。また、さつき学園については、79.5%と高い値となっており、施設一体型であることから、低学年の頃から7年生以上がランチルームで給食を食べる様子を見ており、自然に中学校給食につながる生徒が多いことが主な要因と考えております。

最後に、中学校における全員喫食による給食の提供に向けた研究についてです。実現に向けては、自校方式、親子方式、センター方式、デリバリー方式の4つの実施方式から検討が必要ですが、用地確保や施設の改修など、それぞれの課題をクリアしていく必要がございます。

11ページに参りまして、給食の実施方式についてでございます。具体的に、まず1つ目、自校方式については、学校敷地内の調理場で調理し、その学校に提供する方法ですが、配送が不要、給食の適温管理が可能、学校と一体的な活動が可能、調理員と生徒の交流が可能といったメリットがある一方、学校施設内での用地確保が必要、建設に相当な時間・費用が必要といったデメリットがあります。

次に2点目、親子方式については、学校敷地内の調理場で調理し、その学校及び近隣校に配送する方法ですが、配送に時間がかからない、給食の適温管理が可能といったメリットがある一方、学校敷地内での用地確保や調理委託業者の人員増強が必要であることなどがデメリットとなっております。

次に3つ目、センター方式についてでございます。共同調理場で管理し、複数の学校へ配送する方法ですが、施設整備費に関しては、自校、親子方式よりも安価であるといったメリットがある一方、大規模な用地確保が必要、建設に時間と費用が最もかかる、自校、親子方式と比べ、受け皿となる業者の確保が難しいなどのデメリットがございます。

最後に4つ目、現行のデリバリー方式については、民間調理場で調理し、各校へ配送し、温め直して提供する方式ですが、給食室の整備及び調理器具の増強は必要であるものの、施設整備等の費用が最も安価といったメリットがある一方、食缶による提供ではないため、給食が冷めやすい、地産地消での提供が困難といったデメリットがございます。

以上、現時点での検討状況ですが、今後も引き続き、他の自治体の取組事例や実施状況の

情報収集を行い、本市の実態に則した全員喫食による中学校給食の提供に向けた研究を進めてまいります。

以上でございます。

○事務局 議題2に関する事務局からの御説明は以上でございます。

多岐にわたりますけれども、ここからは委員の皆様方の御意見、あるいは御質問など御議論等賜ればと思います。

よろしく願いいたします。

○江端教育委員 先ほど学力のことに関して発言いたしましたけども、よく西端前市長が言っておられた、「平均より上に行かねばならん」という考え方を、守口市としてどう捉えて、どんなふう考えてるのかってことは、やっぱり市民とか児童生徒に明確に打ち出すことが必要であろうと思います。別に平均より下でもいいんだとか、もっと大事なものがあるんだとか、あるいは点はやっぱり平均を目指すんだとか、多分それは明確に伝わってないんじゃないかなって気がしますので、今、具体的に案があるわけではありませんし、私の個人的な案をここで申し上げてもあまり意味がありませんので。ただ、何らかの方針は、新市長も来られた、発信すべきではないかと、そんなふうに思いますね。価値観の問題ですから、守口市の教育はどうなんだと言われたときに、ただ単に点だけ上を目指すんだとかですね、そうじゃなくてとかね、その辺のところをもっと明確に打ち出す必要があるんじゃないかと私は思います。

○事務局 これまでも、今は個別最適化であったりとか、教材的な学習っていうのを我々のほうがめざしてまして、特に下位層といわれます、正答率のほうで40%以下の子どもたちが、やはり全国と比べますと多いという割合がこれまでも見て取れました。だから、この層の子たちをやはり底上げしていくことで、全体の平均もより上がっていくものだと思っておりますが、やはり、その下位層へのアプローチとしまして、今回、学習意欲をどんどん積極的に持たすために、非認知能力の向上ですとか、そういったところも含めて土曜日学習事業であったり、学力向上推進教員会議の中でも、そういった学習意欲、非認知能力のことについても取り上げて、いわゆる学校の中でどのような取組をしていったらいいのかということをお話をさせていただいております。なので、トータルとしまして、そうすることで全国平均を超えることをめざしてはいますが、やはりそういったところにまずはアプローチしていくことが、必要だというふうに教育委員会としても捉えております。

以上です。

○江端教育委員 学力っていうのは、当たり前ですけども、並べたらトップがいれば、その正反対の位置の子が出てきますんで、どこまでいっても平均が下の子どもって、あって当たり前なわけですよ。その子たちも非常に大事であって、守口の誇りだっということをおね、やっぱり何らかの形で言ってやらないとですね。それこそ、それをしっかりと打ち出してやれば、守口の学校は良いよというふうになるんじゃないのかなというふうに思います。点数はただ単に結果であってね、ロマンチックなことばかり言ってますけれども、絶対大事な

こと、特に最近よく思いますんでね、お願いしたいと思います。やりたいことがあったら、それでいいじゃないかっていう気もしますしね。

○瀬野市長　　今、江端委員から御発言がありましたけども、私もどちらかという、もちろん学力向上ということで、学校だけじゃなくて児童生徒の家庭での読書、あるいは学習の習慣を身につけていくというのは大事だと思います。だからこそ、学力向上プランということで、また今年度、来年度からに向けて、今やってる。これは非常に大事なこと。ただ、やはり今の時代、点を取って、いわゆる受験戦争を勝ち抜いてきた人たち、良い大学を出て、良い企業に就職するといった、これまでの価値観っていうのは少し変わってきているというふうに思います。ですから、社会に出て、非常にいろんな荒波に揉まれたときに、それに耐える、それに適応する能力というか、単にその試験の点数が良いだけではなくて、その生活していく力、生活力というか、総合力を養っていくというのも、大事なところではないかなと思います。ちょっと話がそれるかも分かりませんが、私も政治の世界に入って、政治を目指すそういう人たちの中にも、やはり中学校卒業で高校へ行っていない人とかおられますけれども、やはりそういう社会への適応能力というか、いろんな意味で勉強はできなかったけど、こういう志がある、いろんな別のところに秀でていてという人たちもいっぱい見えています。そういう意味でも、そういう総合力を養っていくことは大事ですし、もちろんその学力向上というのは大事ですけども、それ一辺倒にならないように、今、江端委員もおっしゃったように、いろんな人それぞれの個性がありますから、その個性を伸ばしてやるというような取組も必要なんじゃないかなというふうには思いますけれども。

○古川教育委員　　さっきの学力推進教員とか、土曜日授業とか、守口市がすごく良い取組、予算をしっかりとつけてもらった内容になってるなっていうふうになんか思っています。だからこそ、例えばさっきも土曜日授業とかのところと要保護児童生徒のつながりが、スクールソーシャルワーカーさんがそこで動いてくれたりとかで、それから不登校のところ、スクールカウンセラーさんとかスクールソーシャルワーカーさんの配置の充実が大事っていうふうに御説明があったんですけど、私はむしろ週に何回とか、月に何回の方をうまく活用して、教員とうまく連携することが大事だと思うので、そこも入ってないんですよ。こういう恵まれているところをこんなふうになんか生かしているというような見え方ができるといいなと思いました。感想です。

○事務局　　他の委員の皆様、御意見等ございますでしょうか。

○田中教育委員　　まず本当に、古川委員も言われましたけれども、全体的にいろんな観点から、教育委員会の方々を中心に現場の先生方と力を合わせて、このコロナの時期を何とか乗り越えておられるなっていう印象を持っております。御苦労さまでございます。

その上での質問なんですけれども、シートの2枚目で、私も学力向上に係ることについての質問なんですけど、一番下の括弧の中に、授業改善が着実に推進されているということなんですけど、この授業改善の軸になっているようなものを、もし一つ、二つお示しいただけたらと思いますが。といいますのは、昨年度、寺方南小学校だったと思うんですけども、学校

訪問いたしましたときに、私が一番印象に残っているのが、もう授業の型っていうのが出来上がっておられて、それはもちろん、それまでの守口の教育実践の上でできた型であって、それを寺方南小学校で中心になって推進をしておられるメンバーがおられて、若手の先生、特に新転任と言えいいでしょうか、そういった方々にも少しずつ少しずつ浸透しておられて、研究授業、公開授業のときには、本当にそれを見学する1人として感じる事ができました。そのようなことも含めて、授業改善が着実に推進されている地区のようなものをお教えていただけたらと思います。

○事務局 ありがとうございます。また、今年度もそういう指定校の視察等ございます。ぜひ、そういう機会がございましたら、見ていただけたらというふうに思っております。

大事にしてるポイントとしては、まずやっぱり子どもを中心に考える公開体制ができていくかどうかというところが、ポイントに上がるかなと思います。教師がやりたいことを子どもに押しつけるのではなくて、子どもたちの状況が今こうだから、今こういうふうな指導が必要なんじゃないかっていうのを、校内全体で考えた上で実施するというようなところが、どんどん先生方の授業作りというところでは広がっているなというふうに感じています。議論するその視点もやっぱり子ども中心。子どもがどう変わったかっていうところを話し合うっていうところが、今のその授業の後の討議会でも中心になってる部分になってます。

それで、あともう一つは、校内での取組をその先生だけでやっているのではなくって、学校全体で意識を統一してやっているとところが挙げられます。寺方南小学校で見ていただいたかなと思うんですけども、やっぱりこの学年だけとか、クラスだけではなくって、その学年でやるには、前の学年ではこういうことをしてたから取り組む。それで、この学年で取り組んでるものは、次こういう、今度は上の学年ではこうつながっていく、そこを意識して、校内で取り組まれてるとところが少しずつですけども、どんどんいろんな学校に公開授業とかも含めて発信・普及しているところです。

以上です。

○田中教育委員 1つ目にお教えいただいたことは、まさに新学習指導要領が示している学習感の転換っていうんでしょうか、そのことを形にしておられるなっていうふうに感じました。

それと2つ目なんですけれど、学校全体に広げていくには、やはり校長先生のマネジメントっていうんでしょうか、そういうことも大きく関わっているかと思いますので、もう既にそういう観点でも進められていると思いますけれども、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

もう一つ、よろしいでしょうか。シートの6ページ目です。これは、やはりコロナ禍で非常に不登校の生徒が多くなっているっていうことで、恐らく不登校傾向の生徒も入れると、この数字は2倍、3倍に膨れ上がるのではないかなっていうふうに思っております。もちろん専門家の先生方の御相談を受けるっていうことも本当に大切なことだとは思ひます。

れども、専門家の方々も含めて、このコロナ禍での不登校傾向、不登校の生徒の何か傾向の原因っていうのでしょうか、そういったものをしっかりと早めにとっいたらいいのでしょうか、同時並行で分析をしていく、そういったことも必要なのかなと、そのように感じた次第です。ちょっと抽象的な言い方ですけども。

以上です。

○事務局　　今、委員御指摘いただいたとおりで、学校とも共有しておりますのは、いかに未然防止を図っていくかというところで、専門家等とも連携をしながら、児童生徒のスクリーニングで、全ての児童生徒を対象に、学校として見取っていきたい項目を設定して、経年で変化を見ながら、早く気になる児童生徒を見つけて声をかけるといったことも各校で取り組んでいるところです。改めて、今後も未然防止の観点で、魅力ある学校づくりも含め、進めていく必要があると考えております。

○田中教育委員　　ありがとうございます。よろしくお願いをしたいと思います。

○杉岡教育委員　　学校の授業以外でも読書時間が減っているという件についてなんですけども、学校運営協議会のほうでも、地域の方からやっぱり心配されるようなお声を聞くことがあります。うちの子どもを見ててもやっぱりちょっと不安になることがあって、この夏休み、守口市立図書館の利用者カードを親子で作りに行こうかなと考えたんですが、議案の第1、1つ目の資料にもありましたように、図書りようしゃカードの申込みが7月からスタートしたということで、私もすごく楽しみに待ってたので、やったと思ってすぐに登録してみました。してみたら、結構多彩なジャンルで本の数もあって、ちょっと小説を借りてみてスマホで読んでみたんですが、見やすくて非常に良かったので、子どもにもどんどん勧めるところなんですけど、この電子図書のほうは、りようしゃカードを持っている子どもたちも登録して、使うことは可能なんですか。年齢制限があるのかなというのが、電子図書のほうの貸出しに。

○事務局　　ちょっと確認をさせていただいて、申し訳ございません。

○杉岡教育委員　　すみません。もし可能なのであれば、学校の授業で貸出しの仕方とかをみんなでやったりして、家で自由に子どもたちが借りれるようになれば、ちょっとこの数字も良くなればいいなというふうに思いました。

○事務局　　はい、ありがとうございます。図書の担当の部局に確認をさせていただきます。また、分かり次第、後ほど御回答させていただきます。

○杉岡教育委員　　先ほども不登校の問題が出てたと思うんですが、私も先日ちょっと学校運営協議会のほうで、小学校の校長先生が現状ということで不登校の数とかを教えてくださいまして、それで地域の皆さんからもうちょっと詳しく話を聞こうということで、少人数でその話題についてお話する機会を持つことができました。内容としては、不安に感じてるという子どもの割合が非常に多いが、今のところはまだ数は去年より落ち着いている。学生ボランティアさんが今年は増えたおかげで、助かってるというお話をいただいたり、学生ボランティアさんがお家までお迎えに行き、学校まで来れたとしても、学校によってはその支

援のお部屋があるところと、部屋の数足りなくてそのお部屋がないところもある。それで、その部屋に待機できる先生方もやっぱり担任だったり、授業を持たれてる方もたくさんいらっしゃるの、常に1人そこに置くことも人数的には難しいということで、地域でもボランティアでお部屋で待機できるような人がいればということで、ボランティアの話し合いもしたんですが、やっぱり個人情報の問題とかで、なかなか幅広く人を募集するのも難しく、限られた人でしたほうがいいんじゃないかというお話がありました。なかなか先生たちも非常に苦勞されている問題なんだなというふうに感じています。

今後不登校の問題、うちの話し合いでは9月に入って子どもたちがまた様子が変わって、どれくらい増えるかによって、また対応の仕方を考えていこうかという話し合いで今回は終わったんですけども。これからは非常に皆さん関心の高い問題ですので、いろいろ情報があれば教えていただきたいと思います。

○古川教育委員 専門家の人と官民学の連携で、専門家がこんなことが大事やっていうようなことはおっしゃられるんですが、それぞれの先生が、この学校で、この子、この家庭やったら、こんなことはできないけど、これはできるっていうのがありやと思うんですね。ですので、やっぱりケース会議がとっても大事ななというふうに思っていて、一人ひとりの先生が、一つのマニュアルのようにならないやり方がいいのかなというふうに思っています。それと、さっきの田中委員がおっしゃったように、子ども中心のっていうところで、幼児期の主体的な遊びが、どんどん小学校にも主体的な学びとかになっていく中で、探究の学びっていうのが、一つ軸になっていくかなと思ひまして。それで、せっかく学校運営協議会とか、しっかり仕組みが整っていますので、例えばこういうクラスのこんな話題になったら、ちょっと学校行事をこのクラスはっていうふうな雑談で。それ難しいと思うんですね。自分も教員をしてたから、そういう枠組みを、このクラスだけこの日は公園に行くみたいなことから、結構、難しいかもしれないんですけど、何かちょっとせっかくの学校運営協議会であったり、その読書習慣とかのことを考えると、その主体的な学びとちょっと柔軟な枠組みっていうのが連動できたらいいなと思います。これは意見です。

○事務局 不登校に関してなんですが、先ほどからいろいろ御意見頂戴してますとおり、まずは今コロナ禍の要因も大きく本当に不安を感じている、そういう要因で実際に不登校の児童生徒が増加している状況がありまして、学力向上とともに不登校は、本市が今取り組まなければならない大きな教育課題というふうに捉えています。

いろいろ学校訪問等させていただく中で、特に最近、先ほど報告ありましたが、無気力、不安という要因が増えておりまして、保護者の方も、また子ども自身も、自分の不安が何なのかっていうものが、なかなか突き止められないっていうようなケースも中にはございます。ですので、今、先ほどからありますように、スクールカウンセラー等の専門的な、まずはアセスメント等しっかりさせていただく中で、学校の教員は教員という立場でいろいろ、例えば別室指導であったり、家庭訪問であったり、また放課後登校であったり、いろいろその子に合った方策を今試してみてる場所なんです。今ありましたように、じゃあ地域の方



がどういうふうに関わっていただけるかというところで、ある校区では、先ほどありましたように、その不登校の特に別室指導をどういうふうにやっついこうかというところで非常に悩まれて、どんなふうに接していけばいいのかっていうところから、いろいろ議論いただいております。

以前でしたら、学校からこんなことをしてもらえませんかということだったんですが、今は学校運営協議会の成果でもあって、本当に主体的に地域の方々が議論していただいています。先日も少し具体の検討内容を聞きますと、例えば、メダカを飼って、それを地域の方でお世話をしながら、そこから何か不登校の子とつながっていけないかっていうような議論いただいているという話を聞かせていただきました。ですので、これまでは本当に学校の発想だけで対応しておりましたけども、今、古川委員がおっしゃっていただきましたような、学校の発想にないような、地域の方のアイデアとかも、いろんな方策を模索しながら対応していけたらなと思っております。

先ほどありました学生の力っていうところでも、今、学生フレンドの拡充ということで、ボランティアの学生フレンドの確保、そして積極的な活用ということで、これまでは家庭訪問主体だったんですが、学校の別室でもしっかりと対応していけるようにし、専門家や、また学校の教員とは違ったお兄さんお姉さんという、こういう立場を活用して、どうにか改善を図っていける子がいないかっていうことなんかも、今しっかりと取り組ませていただいているところです。

今後も、これをすればすぐに解決ということはなかなか難しいと思いますが、教育委員会としても学校と連携しながらいろんな方策を模索しながら、そして実行に移して対応していきたいと思います。いろいろ御意見いただきまして、ありがとうございます。

○田中教育委員　加えてというか、補足になるかどうか分からないんですけども、不登校のことにしましては、もちろん守口市だけではなくて、大阪府それから全国的な大きな課題になっているという意味での補足なんですけれども、国の中央教育審議会の会長に荒瀬さんっていう、教員系で初めて、14代目で初めて会長になられて、隣の京都府京都市の堀川高校の校長先生とかをされてた方で、この6月にある新聞のインタビューに答えておられたんですけども、今の学校制度は、不登校の生徒の多さと、それから教員採用試験の倍率の低さという観点からいくと、破綻している面があるっておっしゃってたんですね。ですので、やはり国としても非常に重く、この傾向のことは受け止めておられるんだなっていうふうに感じた次第です。補足的にお伝えいたしました。

○事務局　はい、ありがとうございます。

すみません、先ほどの杉岡委員からの御質問の中で、図書の部分で、事務局で確認をしてみました。

○事務局　担当部局のほうに確認してまいりましたところ、電子図書館について、年齢制限等は特にないということですので、りょうしゃカードとインターネットでの申込みの両方をしていただければ、御活用いただけるということですので、今月からインターネットで

市立図書館のりょうしゃカードと電子図書館の利用が合わせてインターネット申込みできるようにしてるということですので、御活用いただければと思います。

○杉岡教育委員　ありがとうございます。

○江端教育委員　せっかく市長おられますんで、守口市の教育って、どんな教育だと聞かれたら、なかなか答えるの難しいですが。「第2次守口市教育大綱」という5年ものの、ちょうど今年度真ん中なんです。令和3年度、4年度、5、6、7年度。その守口市教育大綱にしっかり書かれておまして。教育に対する理念っていうタイトルで、まずはどんな教育するかっていうことなんですけども、郷土を誇りに思い、夢と志を持って国際社会で主体的に行動する人の育成と。こんなふうに書かれておりましたね。非常に私いい理念だなと思いますが、じゃあこの教育理念をもとに、教職員がどのように教育をして、そして児童生徒がそれを実感して、もっといくと、保護者、次は市民が、本当にそのとおりだとなって初めて、これは本物になるわけですね。恐らく、どこの自治体もこのようなものがあると思うんですけども、そこまで本物になってるところは、多分そんなにないんじゃないのかなっていう気がしますんで、ぜひこれを大事にしていただきたいなと。全ての教育活動のベースにおいていただけたらいいかなと思いますし、もし万が一、これいつからこうなってるのか知りませんが、もし万が一こういうふうに変えたほうがいいという現場からの声があれば、それも勇気を持って、反映されてもいいのかなと、そんなふうにも思います。

それともう一つは、これも市長おられますんで、守口市の現場の小中の校長先生、あるいは現場の教職員がね、やりたい教育があると思うんですよ、こんなことしてみたいっていうね。ただそれには、お金がある場合も結構あると思いますんで、その辺の結果的にこんなことしたって予算要求書、我々教育委員見させてもらいますけども、どこまでそれが反映されてるのかは、私には分からんところなんです。ぜひ現場の裁量権を優先できるようにですね、もうなってるのかもしれませんがね。これをしたかったら、これをしなさい。その代わり、予算は有限ですから、我慢しなければならぬものもあるんですよ。これを我慢して、これをさせてくれというふうなことが、どの程度言えてるのか知りませんが、ぜひ、その裁量権を尊重してやっていただけたらありがたいなと、そんなふうにも思います。すみません、個人的なことですけど、申し訳ない。

○瀬野市長　予算はもちろん限りある、財源に限りありますけれども、守口、今この資料の2にも書かれております、学力向上の推進員の配置事業、市費教員を確保してるとか、あと土曜日学習事業、こういったものも比較的他市に比べると手厚くといいますか、独自での予算をつけているというふうには思ってます。現場でももちろん各学校の校長先生によって、いろいろやりたいことは違うんだろうなというふうには思ってますが、何かその共通的なもので、市独自でやることについては、これは予算はしっかりと僕としてもつけていきたいなと思っておりますので、そこはどんどん現場からの声を吸い上げていただいて、教育委員会の中である程度まとめていただいて、こういうことを一度守口市でも取り組みたいというのがありましたら、ぜひ来年度に向けてしっかり議論をして、必要なものはつけていくという

ことでやっていきたいなと思っています。

○江端教育委員 守口市はよく教育予算をつけてくれてるほうだと、本当にそう思います。ただ、やっぱりどこまでいっても、これをして、あれをしてっていうのは、これは切りがなく、ある意味当たり前だと思います。当然現場は現場でスクラップせんと駄目なわけですよ。いくらでも仕事増えていきますし、お金の問題だけと違ってね。そういったことを含めて、裁量権って大事だと思います。ケチじゃないと思いますよ、守口市は本当に。前回かな、守口市はこんなに金使ってますよっていうデータを見せてもらいました。本当によくやってるほうだと思います。

○瀬野市長 そのかけたお金がより効果的に現場で機能するように、予算はつけているのかなと思います。ありがとうございます。

○田中教育長 今の話題に関しましてですが、実はこの間、私、十六、七の大学の学長さんや教職担当の先生方と面談をしてきました。それぞれ市の教育の取組、具体的な施策を冊子にまとめて御説明したところ、こんなによくされてるんですね。大学っていうところは、あんまり市町村の施策がね、まとまってどうなってるかっていうのは、あんまりよくお分かりでないということもあってだと思んですが、すごく守口市は頑張っておられますね。笑いながら財源どうしてるんですかとか言われるんですが。それぐらい私自身も4月以降、予算については、かなり他市と比べてっていうところは感じてるところです。それで、今、江端委員おっしゃったように、その現場の裁量っていう云々のお話につきましては、何ていうのか、学校からこういうことをやりたいのでっていうような提案をいただくような形で、それが学校内でちゃんとコンセンサスを得ておられて、それをやるのがその学校にとって、より良いようになる効果が出るっていう、そういう優れた提案であれば、私は市長に対して、こういうことなんでもお願いできますかっていう、そういう予算要求はぜひしていきたいなと思っております。

間違っても市として、とにかくこうするからこうしろっていうようなやり方では現場的には受け入れられないですし、それぞれの現場、現場での取組とか、状況に応じた今の課題はこれなのでっていうような、そういう提案をぜひいただけたらなと思ってます。まあ全てが採択できるかどうか分かりませんが、来年度に向けましては、ちょっとそういうことも今、少しお話をしているところです。

○江端教育委員 本当に、若い教職員がね、いろいろ考えてると思うんです。それがどっかで詰まらないように、学校長のマネジメントが一番大事なことだと思いますけれども、ぜひ組織的なちゃんとしたルールにのっかってね、そういう声が、ちゃんとした声になるように望みます。そういうのになればなるほど、守口市の教育はすばらしい、守口市の学校はすばらしいとなっていくと思います。

○事務局 はい、ありがとうございます。

議題2のほうで、その他何かございますでしょうか。3の学校施設のものですとか、4の中学校給食とか、そういった辺りもよろしいでしょうか。

では、こちらのほうで議題2のほうは終了とさせていただきたいと思います。

本日の総合教育会議につきましては、議題は以上となります。

最後に次第に書かれております、その他といたしまして、守口市総合教育会議の今後スケジュールについて簡単に御説明をさせていただきたいと存じます。

令和5年度におきましては、昨年度と同様に2回の開催を予定いたしております。

本日が第1回目ということで、ただいま皆様に種々御議論をいただいたところでございます。次回の総合教育会議でございますけれども、11月頃に開催を予定いたしております。

本日頂戴いたしました御意見、あるいは御議論の内容なども踏まえまして、教育大綱を踏まえた翌年度における政策や予算編成等につきまして、PDCAサイクルにつなげてまいりたいと考えております。

第2回の詳細につきましては、開催期日が近づきましたら、委員各位にまた改めて日程調整等御報告をさせていただきたいと存じますので、よろしくお申し上げます。

スケジュールにつきまして、事務局からの説明は以上でございますけれども、委員の皆様方、御質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

最後に、本日の議題以外で皆様方から何か御意見等ございましたら、お願いをいたします。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、最後に主催者でございます瀬野市長から一言御挨拶を頂戴いたします。

○瀬野市長　　本日は、貴重な時間をいただきまして、ありがとうございます。

学力向上の問題、それから不登校対応等々について、本当に貴重な御意見をいただきまして、教育委員会それから市としましても、しっかりと課題の共通認識をいたしまして、これから本当に守口の学校、守口の教育良くなったねと言われるようなものにしていきたいというふうに思いますので、引き続き教育委員の皆様方には御支援いただきますようお願い申し上げます、簡単ではございますが、終わりの挨拶にさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○事務局　　それでは、これもちまして本日の総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。